

重要文化財展示室展示資料

令和 8 年 7 月 28 日～令和 8 年 11 月 23 日

新たな展示品（主なもの）



いれこになつたてっぽ

弥生時代後期（紀元 1 世紀～2 世紀頃）

鋳型に溶かした鉄を流し込んで作られた鋳造鉄斧の内側に鍛造の板状鉄斧が入れ子になった状態で出土したものです。鋳造鉄斧は中国北東部・朝鮮半島北西部で製作されたもので、海を介したダイナミックな交流を示す資料です。



とってきゃくだいつき

弥生時代終末期～古墳時代前期初頭（紀元 3 世紀頃）

優勝カップのような形をした器で、ヤマグワの一木をくり抜いて複雑な形を作り出しています。器の両側には、装飾性に富んだ把手がつき、底部にはスカートのように外に広がる脚台がついています。

さまざまそざいつくやじり 様々な素材で作られた 鏃

弥生時代中期中葉～古墳時代前期初頭（紀元前 2 世紀～紀元 3 世紀頃）



石鏃



骨鏃



木鏃



銅鏃



鉄鏃

弓矢は縄文時代までは狩猟の道具でしたが、弥生時代になると戦いの道具としても使われるようになります。石鏃は縄文時代から使われており、安山岩というガラス質の石を打ちかいて作られています。鏃には石鏃のほかに、シカの角を加工して作られた骨鏃、モミなどの針葉樹で作られた木鏃、青銅製の銅鏃、鉄製の鉄鏃があります。青谷上寺地遺跡では銅鏃が突き刺さった人骨が見つかったことから、銅鏃が戦いの道具として使われたことがわかります。様々な形がある一方で、素材が異なる鏃どうしがよく似た形をしていることがわかります。